

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Teenage and young adult pregnancy and depression: Findings from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

若年妊娠と抑うつに関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: ディカルサポートセンター(MSC)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Archives of Women's Mental Health

年: 2023

DOI: 10.1007/s00737-023-01400-6

筆頭著者名: 石塚 一枝

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

10代の妊娠は、その多くの要因から抑うつのリスクを増大させる。また、若年成人期の妊婦は、より年齢が高い妊婦と比較して抑うつのリスクが高い可能性があるが、若年成人期の妊婦における抑うつに関するデータは不足している。本研究では、10代および若年成人の妊娠と抑うつとの関連を検討した。

方法:

エコチル調査に参加した妊婦を対象とした。多変量ロジスティック回帰を用いて、年齢群(14~19歳、20~24歳、25~29歳、30~34歳、35歳以上)と抑うつとの関連を、生活習慣・社会経済的因子で調整して検討した。抑うつは、自記式の Kessler Psychological Distress Scale を用いて評価した。

結果:

合計 96,808 人の妊婦が解析対象となった。10代(14~19歳)および若年成人(20~24歳)の妊娠は、高齢妊娠(35歳以上)と比較して抑うつを有する割合が高かった(10代: OR 4.28、95%信頼区間、CI[3.24-5.64]; 若年成人: 若年成人: OR 3.00、95%信頼区間[2.64-3.41])。共変量で調整すると、抑うつのリスクの程度は低下したが、10代と若年成人の妊娠は、高齢妊娠と比較して抑うつのリスクが高いという関連は、統計的に有意なままであった。

考察(研究の限界を含める):

10代や若年成人は、うつ病の既知のリスク因子を持っている可能性が高い。例えば、これまでの研究では、社会的支援の欠如がうつ病のリスク因子であることが判明している。本研究では、相談できる人が少ないことが抑うつのリスクを高めていることがわかった。このことより、若い女性の抑うつの予防や介入には、社会的支援を提供することが重要であることが示唆された。本研究の限界は、臨床面接が精神障害を診断するためのゴールドスタンダードであるものの、本研究では自記式の質問票を用いて精神的健康の評価を行ったことである。ただし、こういった質問票は大規模な疫学調査には有用であるため、広く使われている。

結論:

本研究の結果は、10代と若年成人の妊娠は高齢妊娠に比べて抑うつのリスクが高いことを示した。この知見は、抑うつに関連した予防や介入を10代や若年妊娠女性に優先的に行うことを示唆していると考えられる。